

# 第1章

## 時代の潮流

## 1 人口減少社会の到来

- 本県では、1985年の約125万人を境に人口減少に転じました。2000年代に入ってから社会増減及び自然増減ともに減少傾向となり、2014年には117万人となっています。その流れは今後も更に加速することが予想され、国立社会保障・人口問題研究所の推計では2040年には約96万人、2060年には76万人まで減少すると予想されています。
- 高齢化も異次元のスピードで進展しています。
- 人口減少と高齢化に伴い、本県の小規模集落数が今後急増することが見込まれており、集落機能の維持が課題となっています。住み慣れた地域に住み続けたいという住民の思いを叶えるには、その集落機能を広域で補い合う「ネットワーク・コミュニティ\*1」の構築が大切です。
- 今後、人口減少のスピードを緩やかにするなど、人口減少社会に適切に対応することが重要です。結婚から妊娠、出産、子育ての切れ目のない支援により子どもを産み育てやすい環境づくりや高齢者がいつまでも元気で長生きできる社会づくりが必要であるとともに、地方創生の推進が大きな課題となっています。

## 2 価値観の多様化とライフスタイルの変化

- 平成26年2月に実施した「大分県の政策に関するアンケート調査」では、「都会暮らし（31.9%）」より「田舎暮らし（63.5%）」が重視されています。経済優先の生活よりも、自然に囲まれた生活など心の豊かさにつながるものが求められていると考えられます。
- 本県は県土の7割を山地が占め、瀬戸内海及び太平洋に面しており、豊かな自然環境に恵まれています。このかけがえのない自然を大切にする取組、例えば水環境の改善等が重要になっています。
- また同アンケートでは「物の豊かさ（18.9%）」より「心の豊かさ（75.0%）」が重視されているという結果も出ており、価値観の多様化に伴って人々が魅力と感じるライフスタイルも多様化しています。
- 本県は、自然を活かした海・山のレジャーや温泉、冬はスキーなども楽しむことができます。最近では、その土地の自然や歴史、暮らしを感じながらのんびり歩く「九州オルレ」などが人気を集め、海外からの誘客にもつながっています。今後も「おんせん県おおいた」ならではの魅力をつくっていくことが必要です。
- またラグビーワールドカップ2019や2020年東京オリンピック・パラリンピックでは国内外から多くの来県者が予想され、本県をアピールする絶好の好機となります。引き続き本県のツーリズムを推進することが大切です。

### 3 安心・安全で心豊かな暮らしの志向

- 南海トラフ地震が今後50年以内に90%程度の確率で発生すると予測されており、県内の最大死者数は約2万2千人と想定されています。
- 本県は、山地、盆地、平野、リアス式海岸など起伏に富んだ地形に加え、台風常襲地帯に位置しており、近年の異常気象により局地的な大雨や土石流などの災害リスクが高まっています。
- 平成24年九州北部豪雨では「これまでに経験したことのないような大雨」により、県北部、西部、中部の山間部を中心に死者・行方不明者4名、床上・床下浸水947棟、土砂災害53件の大災害が発生しました。
- 全国的にも平成26年の広島市を襲った土砂災害や御嶽山での戦後最悪となる火山災害、平成27年9月の台風18号に伴う関東・東北豪雨災害などが発生しています。
- 頻発化・激甚化する様々な自然災害への備えが急務と言えます。
- 現在の社会資本は、高度経済成長期以降に集中的に整備されたため、建設後50年を経過する施設が、今後20年間で加速度的に増加していきます。県民生活や経済活動を支える社会資本の安全性を確保し、維持補修に係る費用の平準化を図るための戦略的な老朽化対策が必要となっています。
- 地域の建設産業は、道路、河川、港湾など社会資本の建設・維持管理を担い、災害時には、その最前線で地域の安心・安全な暮らしを支える地域の守り手として重要な役割を果たしています。安心・活力・発展の県土づくりを持続的に進めるためには、地域の建設産業を魅力ある産業として再生し、その担い手を確保・育成することが重要です。

### 4 グローバル化と産業活動の下支え ～九州の東の玄関口～

- 中国やインド等の経済発展により、アジアは世界の成長センターとして存在感を高めています。九州は、そのアジアと日本をつなぐゲートウェイであり、さらに本県は、その九州の東の玄関口という地理的な優位性を持っています。
- 平成27年3月、東九州自動車道が県内全線開通し、九州全体が高速道路ネットワークで結ばれようとしており、増大する高速道路の交通量への対応が必要となっています。また、本県は、九州と本州・四国の間を結ぶフェリーの8割以上が発着しており、九州各県を循環する陸路（高速道路）と、関西・中四国からの海路（フェリー航路）が交差する結節点となるため、人の流れ、物の流れの拠点として大きな可能性を有しています。
- 本県には、大分臨海部コンビナートに全国でも上位の生産量を誇る鉄鋼、石油化学や九州唯一の精油所、北部地域には自動車関連、その他半導体や医療関連など多様で厚みのある産業が集積しています。
- 産業の発展基盤を整え、人の流れ、物の流れを活性化するため、九州の東の玄関口としての拠点化を図る港湾機能の強化や広域道路ネットワークの整備を加速する必要があります。さらには、地域の暮ら

しと産業を支える道づくりや都市部の渋滞解消などを進めていくことも重要です。

- 九州新幹線西九州ルートをはじめ整備計画3路線が順次完成に向かうなど、全国の新幹線ネットワークが拡大しています。
- 本県の新たな広域交通ネットワークのあり方として、国レベルの構想・計画のうち、太平洋新国土軸構想や東九州新幹線を検討する時期にきています。

土木建築行政における時代の潮流

大分県長期総合計画  
「安心・活力・発展プラン2015」  
時代の潮流

人口減少とグローバル化

- ・人口減少の緩和
- ・集落機能を補い合う「ネットワーク・コミュニティ」の構築
- ・九州発、大分発の観光交流や貿易

価値観の多様化とライフスタイルの変化

- ・大分の魅力づくりと情報発信
- ・豊かな自然を守り、楽しむことができる環境づくり
- ・国際スポーツ大会を契機としたスポーツの振興
- ・NPO・ボランティア活動の促進

安心・安全で心豊かな暮らしの志向

- ・子どもを生み育てやすい環境づくり
- ・高齢者の元気づくりと地域包括ケアシステムの構築
- ・小規模集落対策
- ・社会インフラの老朽化対策
- ・南海トラフ巨大地震等への備え
- ・治安向上・交通安全対策

雇用の受け皿づくりと多様な参加

- ・新たな企業誘致と産業集積の進化
- ・ツーリズムの推進
- ・九州の東の玄関口としての拠点化や東九州新幹線の整備など発展基盤の整備

未来を切り拓く人材の養成

- ・地域を支える担い手の育成

大分県土木建築部長期計画  
「おおいた土木未来プラン2015」  
時代の潮流

人口減少社会の到来

- ・ネットワーク・コミュニティの構築
- ・子どもを産み育てやすい環境づくり
- ・高齢者が元気で長生きできる社会づくり

価値観の多様化とライフスタイルの変化

- ・豊かな自然環境や景観等への配慮
- ・「おんせん県おおいた」の魅力づくり

安心・安全で心豊かな暮らしの志向

- ・頻発化・激甚化する自然災害への備え
- ・社会資本の老朽化対策
- ・地域を守る担い手の確保・育成

グローバル化と産業活動の下支え

- ・アジアのゲートウェイである九州その九州の東の玄関口としての拠点化
- ・広域交通ネットワークの構築

